

ぼうさい

日上市防災協会会報

■ 2011年7月1日発行 第85号

■ 発行 日上市防災協会 事務局

日上市神峰町 2-4-1 (日上市消防本部内)
TEL 22-0727 FAX 22-0727



場所・題名：那須塩原・「涼気」 撮影者：茨城電機工業株 小原 昌

平成23年度 全国統一防火標語

「消したはず 決めつけないで もう一度」

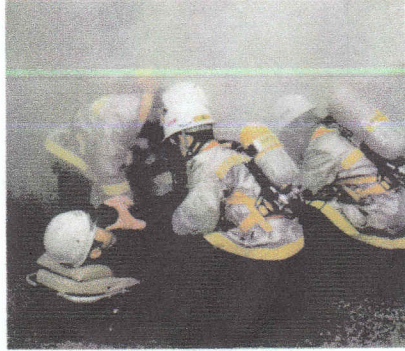
平成23年度 危険物安全週間推進標語

「危険物 無事故のゴールは 譲れない!」



放水訓練

その後、自動車班による消火放水を実施、工場建屋に向け消防車4台による14線一斉放水で応用操法を締めくくりました。



救助訓練

水訓練や、分列行進等を行い、早朝の訓練は未だ薄暗い中、甲高いラッパの吹鳴により緊迫した空気が切り裂かれ、隊員の活気ある訓練が始まります。高砂工場で実施した応用操法の中では、発煙筒の煙が充満する中、空気呼吸器を装着した隊員が仮想火点の中から要救助者を救出する訓練を取り入れ、救出後は救急搬送するとの想定での訓練を体験しました。

従業員一同が「自分の職場は、自分で守る」を基本理念に防災活動に努めておりますが、防災訓練や年末の各種行事には、消防隊員が職場の防災リーダーとなり、避難誘導や消火器取り扱いの指導など、教育訓練にも参画しています。その他、年末からの乾燥する気候の旺季には、火災発生のポテンシャルを



基本操法訓練

5月の演習では、工場長を始めグループ会社代表、工場幹部の観閲の下、隊員が一丸となった演習で、日頃の訓練成果をご覧頂いております。演習実施の退勤後には、まとい会と称し、工場、グループ会社幹部の方々と隊員が一同に会し、早朝の演習を肴に懇親を図る事で、より親睦を深めております。更に、基本操法やラッパ吹鳴などの項目で、技術や節度などを競い合う、消防競技会を年1回実施して、採点の結果は後日全員の前で発表し、優秀な隊員を表彰しています。

予想して、隊員が少数グループに分かれて職場を巡視し、暖房用石油ストーブや灯油置き場などの火災発生の高い施設を重点に、使用状況調査や周囲の可燃物の有無など火災予防のために防火点検を実施し、従業員の防災意識の高揚に努め、自主防衛の一翼を担っております。

また、昨年は、消防本部殿のご協力により、日立署及び消防拠点施設の施設見学や煙道体験、高圧放水訓練などの大変貴重な体験もさせて頂き、今後の防災活動の参考にさせて頂きました。更に先日は、北部消防署員ご指導の下、救急救命講習会を開催して頂き、AEDの使用方法や心肺蘇生法の知識・技術習得に努め、多くの隊員が「万が一」の際の対応力を養っています。熱心にご指導頂きました署員の皆様に改めて御礼申し上げます。

そのほかには、「日立市消防出初式」「日立市林野火災訓練」「日高学区市民自治会防災の集い」への参加など、地域の防災活動にも参加させて頂き、地域と密着した消防隊として、微力ながら防災活動に協力させて頂いております。

周囲を取り巻く環境は刻々と変化を伴ってきておりますが、今後も日立市防災協会殿、日立市消防本部殿のご指導を頂きな

がら、日立電線日高・高砂・豊浦地区自衛消防隊も基本技術の伝承と、新たな防災知識、技術の習得に挑戦し、事業所は元より、地域の防火・防災活動に積極的に関わり、取り組んで行く所存ですので、今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

地域探訪

日立市・十王地域

十王町伊師地区在住

沼田 明博

十王地区は自然豊かな地域ですが、ナンバーワンやオンリーワンと言われる個所が何箇所もある事は、意外と知られないのではないかと推察し、紹介しながら地域探訪としたい。

よく知られているのが、十王町伊師地域にある国民宿舎「鶴の岬」で、宿泊利用率が21年連続日本一。

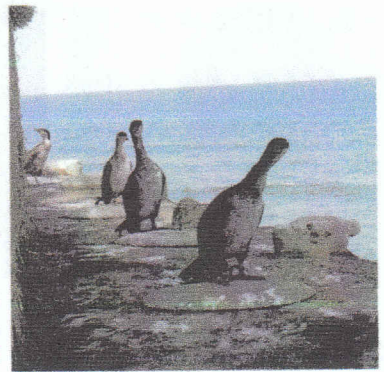


おもてなしと新鮮な海鮮料理・郷土料理などが好評で、3ヶ月前からの予約申し込みが1日で満室となり、地元に住んでいながら予約を取るのが困難な状況である。日本中の宿泊施設でもそんなに多くはないのではないかと隣接する伊師浜地域の海岸の断崖絶壁にはオンリーワンのウミ鶴の捕獲地があり、特に、鶴飼いで有名な長良川を始め全国11箇所を鶴飼地へウミ鶴を供給している。



ウミ鶴は産卵のため春には北へ渡り、秋には南下する渡り鳥ですが、途中羽根を休めるために安全な断崖絶壁である伊師浜海岸に立ち寄ることから、春と秋の2回捕獲が行われている。ウミ鶴の捕獲期以外の時期には捕獲場所の見学が出来る、捕獲の状況を観ることが出来る。また、「国民宿舎「鶴の岬」の敷地内には、「鶴のパラダイス」が

あり、いつでもウミ鶴の生態を観ることが出来る。

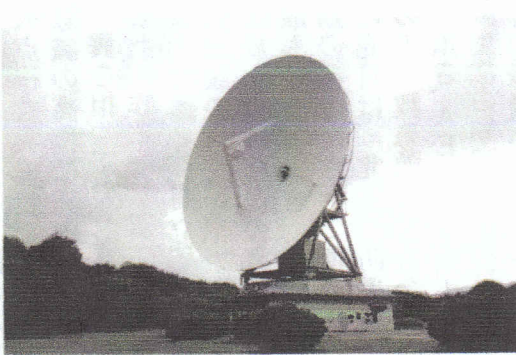


次にスギ花粉が多くなる季節になると一躍脚光を浴びるのが花粉の量が少ない杉の研究をしている林木育種センター(十王町伊師)の存在である。(財)森林総合研究所林木育種センターは、事業規模が国内最大の林木育種研究機関であり、多様な樹種3万4千点を保存する国内唯一の研究機関である。

種の保存や遺伝子組み換えによる新種さらには、あらゆる環境に対応した新種などの林木に関する研究がされております。育種センターの近くには、日立市と高萩市にまたがる「茨城宇宙通信実験所」として開所し、国際衛星通信に使用されたパラポラアンテナがある。このアンテナは、1963年に「茨城宇宙通信実験所」として開所し、米国の周回衛星リレー1号を経由した世界初の「太平洋横断テレビ

中継」を成功させ、ケネディ米大統領の暗殺を受信した場所であり、現在は、多様化する技術革新の波の中で「茨城衛星通信センター」としての役割を終え、茨城大学が宇宙科学教育研究センターとして、電波望遠鏡を利用してあります。近くで見えるアンテナの大きさは、壮大なものであり、見る価値があり、また資料館が隣接されている事から、電波望遠鏡についての知識を得ることが出来る。

春には桜も満開となり、桜の名所としても有名な場所となっている。



「茨城大学宇宙科学教育研究センター」の太平洋岸には、「いぶき山イブキ樹叢」があり、自然生息するイブキの樹の北限に近しいと言われており、明治30年頃

までは、イブキ林があり、学術的な保存を目的に大正11年に国の天然記念物に指定されている。現在は、円錐状のイブキ山の高さが11・4メートル、面積は1千700平方メートル、樹齢は、約400年と言われており「イブキ富士」とも呼ばれております。



最近、小木津地区で日本最古の地層が発見されており、十王地区にも数億年前の地層・岩石があるとされており、調査結果によつては、十王地域の地層・岩石も小木津地区の地層と発見された日本最古の地層となる可能性があり、地域の皆さんで「十王の大地を巡るジオウオーキング」を計画しながら夢を膨らませております。